



SPC認証プログラム 概要説明資料

Sustainable Plastics Certification

～動静脈連携型マテリアルリサイクルプロセスに関する工場/事業所認証～

令和8(2026)年5月19日



一般社団法人サステナブル経営推進機構

Sustainable Management Promotion Organization

SPC認証プログラム事務局(SX戦略事業部内)

TEL 03-5577-7587 spc@sumpo.or.jp <https://sumpo.or.jp/spc/>

目次

1. SPC認証プログラムの開発背景とこれまでの取組み 2
2. SPC認証プログラムの概要 14





1. SPC認証プログラムの開発背景とこれまでの取組み

サーキュラーエコノミーに関わる動き

サーキュラーエコノミー実現に向けた取り組みが加速、再生プラスチックへの注目度も高まる

欧州の動き

■ エコデザイン規則（2024年7月施行）

- **ほぼすべてのカテゴリーの製品に適用**
食品、飼料、医薬品、動物用医療品、自動車等は除く
- **製品ごとの基本要件（エコデザイン要件）を設定するための枠組みを規定**
エコデザイン要件：
エコデザイン指令のエネルギー効率性等に加えて、製品の耐久性、信頼性、修理可能性、リサイクル材の含有率等
- **エコデザイン要件などの製品情報を「デジタル製品パスポート」を通じて消費者に提供することも義務付け**

参照：<https://www.jetro.go.jp/biznews/2024/07/f2af2bb5a7f33a8e.html>（2025/7/29アクセス）

■ ELV規則案（2025年12月EU理事会と欧州議会の暫定合意）

- **現行のELV指令と3R指令（自動車型式認証における再使用、再利用、再生の可能性に関する指令）を一本化**
- **新車に使用するプラスチックのうち、再生プラスチックの利用を15%以上（施行6年以内）とし、その後25%以上（施行10年以内）に引き上げる義務化**
※15%、25%と段階的に割合を拡大
- **上記のうち、20%はEnd-of-Life Vehicles: ELV由来であること**

参照：<https://www.jetro.go.jp/biznews/2024/07/f2af2bb5a7f33a8e.html>（2025/12/26 アクセス）

日本の動き

■ プラ新法（2022年4月施行）

- 「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」
- **プラスチック製品の設計から廃棄物の処理までのライフサイクル全体に関わるあらゆる主体における3R+Renewableの促進措置**
 - ①基本方針の策定
 - ②個別措置：環境配慮設計指針、ワンウェイプラスチック使用の合理化、市町村の分別収集・再商品化、製造事業者等による自主回収の促進、排出事業者の排出抑制・再資源化

参照：<https://plastic-circulation.env.go.jp/>（2023/9/21アクセス）

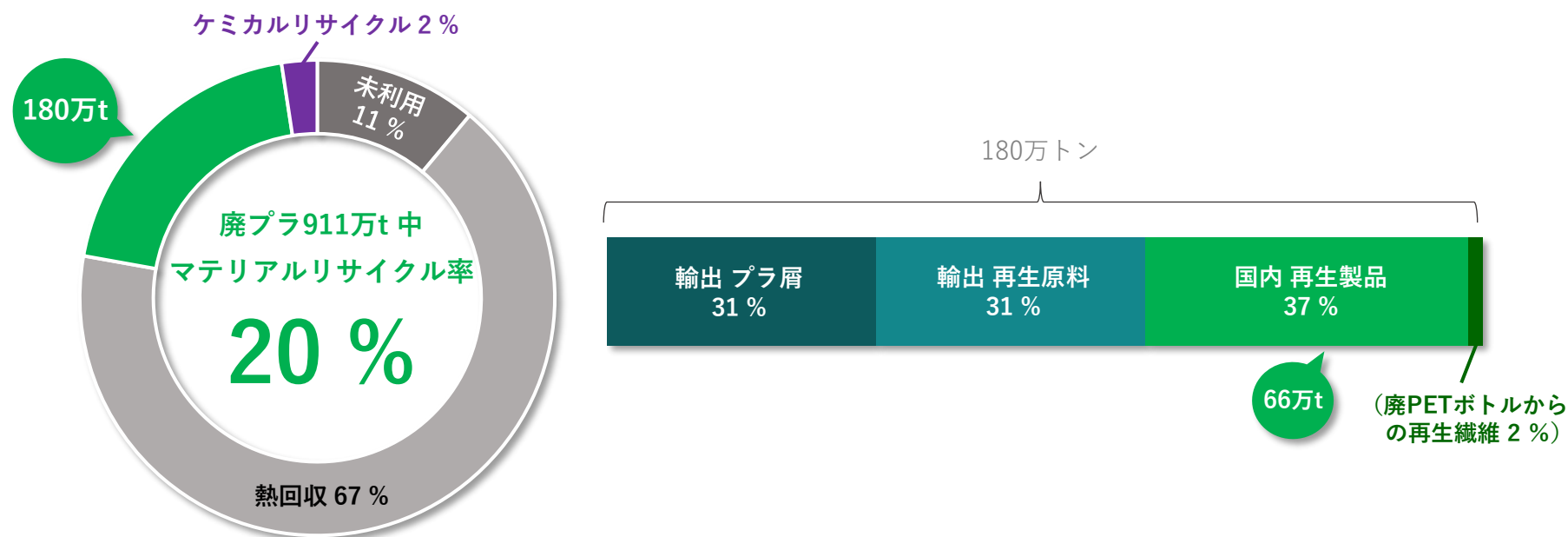
■ 改正資源法（2026年4月施行予定）

- 「資源の有効な利用の促進に関する法律」
- **特定の製品の生産量が一定規模以上の製造事業者等に対して、再生資源（リサイクル材）の利用に関する計画の提出や定期報告が義務化**
- 優れた環境配慮設計（解体・分別・長寿命化につながる設計など）は主務大臣の認定を受けることが可能
- 廃棄物処理法許可の特例適用
- リユース、リース、リペア、中古品販売、シェアリングなど「CE コマース事業者」の位置づけとして事業者類型を新設

参照：https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/sangyo_gijutsu/resource_circulation/pdf/011_03_00.pdf（2025/7/23アクセス）

国内におけるプラスチック再生利用の状況

- 国内で排出した廃プラ911万トンのうち、89%は有効利用されており、単純焼却等の未利用分は11%。有効利用分のうち、66万トンがマテリアルリサイクルされ国内で循環利用
- マテリアルリサイクル 180万トンのうち、62%がプラ屑あるいは再生原料として輸出



※ 一般社団法人 プラスチック循環利用協会 「2024年プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況」 より

プラスチックの再生利用に対する関心の高まりと課題

- 再生プラスチック利用のモチベーションが高まる一方で、使用時の懸念として、**品質・安定供給・コスト・含有化学物質**を挙げる需要者は多い
- 懸念事項の解消の一步として、再生プラスチックおよびその**供給者が適正に評価される**ことが求められる

再生プラスチックを使いたい

需要者側（動脈）



強度など品質については譲れないポイント
そのなかで、いかに再生材を使いこなしていくかが重要

- どこに行けば買えるのか？
- 品質は問題ないか？
バージン材より劣るのでは？
- バージン材より安く買いたい
- 安定して買えるのか？
- 化学物質など安全性は問題ないか？

再生プラスチックを使って欲しい

供給者側（静脈）



国内で取り合いをしている場合ではない、オールジャパンで取り組むことが重要
“ものづくりリサイクラー”へ業界全体の底上げも必要

- 材料の配合設計技術を有しており、用途に応じた品質を確保
- 資源の仕入れ先ネットワークの構築などによる安定供給体制を確保
- 品質管理体制など企業間での差がある状況

ギャップ



これまでの取り組み

年月		取組
2018年	初夏	「心臓産業の会」発足 循環経済への移行が急速に求められる中で、資源循環を担う“ものづくり事業者”の存在が希薄であるという問題意識を（石塚化学産業本社近くで行った会合で）共有。心臓産業でプラスチックの未来を考える会の始まり。
2020年	8月	「心臓産業の会」においてSuMPOが事務局の役割に
	9月	「心臓産業の会」動静脈連携により使用済プラスチックの再製品化実証事業 スタート（ブランドオーナー、製品製造者、材料化・原料化事業者、産廃回収・処理事業者に加えバージン材メーカー参加）
2021年	6月	SuMPO-CNイニシアティブで、再プラ資源循環PJの推進を宣言
	12月	中部経済産業局・SuMPO主催 CEシンポジウムで心臓産業の会のコンセプト、資源循環の在り方等を発信
2022年	3月	心臓産業の会主導の動静脈連携による再製品化実証の成果報告
	11月	中部経済産業局・SuMPO主催 CN×CE×GX価値創造戦略セミナーで、 プラスチック資源循環プロジェクト発信、CEファクトリー（資源価値創造センター構想）発信

これまでの取り組み

年月		取組
2023年	3月16日	<p>再生プラスチック利用拡大を目的として、石塚化学産業(株)、いその(株)、(株)近江物産、(株)タイボー、SuMPOにて事業連携協定を締結</p> <p><再生プラスチック資源価値創造プロジェクト> 推進</p> 
	10月6日	<p>「Sustainable Plastics Certification (SPC) 認証プログラム」の開発を「提案」</p> <p>※SPC認証プログラムの目的、骨子、概略等を作成し、提案</p>
2023年10月 ～2024年10月		<p>関係省庁、関連団体、需要者ヒアリング実施</p> <p>※専門機関とともに、プログラムのブラッシュアップ</p>
2024年	10月	SPC認証認定会議開催（技術委員会実施）
	10月	「SPC認証」パイロット認証スタート
2025年	3月	「SPC認証」パイロット認証取得（8事業所）を発表
	5月	「SPC認証プログラム」の本格運用開始

これまでの取り組み（SPC認証の起点・原点）

再生プラスチック資源価値創造プロジェクト Recycle Plastics Resource Value Designing Project

- 2018年 心臓産業でプラスチックの未来を
考える会発足
- 2020年 動静脈連携による使用済プラス
チックの再製品化実証事業開始
- 2022年 CEファクトリー構想 (SuMPO)
発信
- 2023年 再生プラスチック資源価値創造
プロジェクト事業連携協定
SPC認証制度提案
- 2024年 SusPla設立提案
- 2024年 SusPla設立 (7月)



再生プラスチック 資源価値創造産業 (新産業創造)

- プラスチック資源循環のあるべき姿を描く（プラスチックの高い価値の訴求は図る）
- 再生プラスチックの安定確保（調達）と安定供給の仕組みを提案＝産業活性化＝地域の成長発展
- ものづくり変革を促進
- 再生プラスチックのステータス向上／適正に評価される環境・基盤の整備（認証センター機能のサービス化）

社会の変革を促し
社会課題を解決

【再生プラスチック資源価値創造プロジェクト】



■ 心臓産業中核メンバーによる事業連携（連携協定の締結） — 1

1. 連携協定構成メンバー ※社名あいうえお順

- 石塚化学産業株式会社（東京都 代表取締役 石塚勝一）
- いその株式会社（愛知県 代表取締役社長 磯野正幸）
- 株式会社近江物産（滋賀県 代表取締役会長 芝原 茂樹）
- 株式会社タイボー（和歌山県 代表取締役社長 平野二十四）
- 一般社団法人サステナブル経営推進機構（東京都 代表理事 壁谷武久）

2. 事業連携の目的（連携協定 第1条関係）

プラスチックは、生活の向上、経済の成長、社会の高度化とともに、人類社会にとって不可欠な資源として幅広く活用され、発展を続けてきた。さらに、経済、社会の持続性の危機や線形経済の限界が指摘されている現代においては、気候変動対策や資源枯渇問題の解決と社会における利便性の維持を両立できるポテンシャルのある資源として、「再生プラスチック」に対する期待が高まっている。

このような社会、経済の期待に応え、

- プラスチックの高い価値の訴求を図る
- 再生プラスチックの価値向上に資する認証等の社会的仕組みを構築する
- 再生プラスチックの継続的な確保と安定した循環利用を実現する新たなビジネスモデルを創造する



再生プラスチックの利用拡大につなげる（国内循環倍増）

■ 心臓産業中核メンバーによる事業連携（連携協定の締結） — 2

3. 事業連携の内容（連携協定 第3条関係）

(1) 再生プラスチックの品質の信頼性の向上および安全性の確保に関すること

（認証の仕組み、ステータス向上、顕彰・表彰の仕組み）

- 再生プラスチックの価値と信頼性を高める **認証の仕組みの構築** に関すること
- 再生プラスチックのブランド化（ステータスの向上）に関すること
- 再生プラスチックの有効活用・活用量拡大を促進する優秀事業者の顕彰・表彰に関すること

まず
ここから

(2) 再生プラスチックの環境性能情報の開示の推進に関すること

- 再生プラスチックの **環境影響評価、環境性能開示**、環境に対する貢献度の検証に関すること

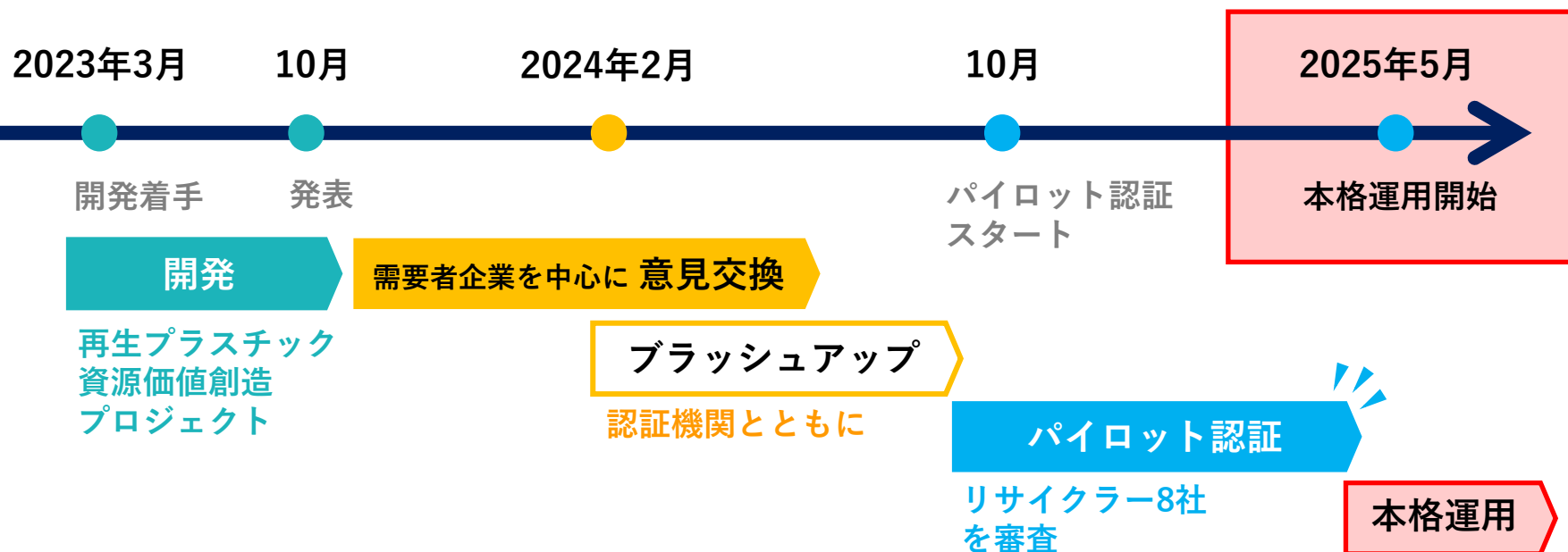
(3) 再生プラスチックの需給バランスの安定化に関すること

（新しい回収の仕組み、再生技術の高度化、市場開拓、用途開発、マッチング）

- 再生プラスチックが効果的に **集まる仕組みの構築** に関すること
- 再生プラスチックの循環活用を高度化するための新しい技術、手法の開発に関すること
- 再生プラスチックの新市場開拓、用途開発に関すること
- 再生プラスチックの有効活用につながる円滑かつ的確な事業者 **マッチングの場の提供** に関すること
- 再生プラスチックの **取引量拡大を実現** するためのビジネスモデルの開発、実行に関すること

(4) その他、再生プラスチックの持続可能性を高める事業に関すること

SPC認証プログラム本格運用までの歩み



※参考：パイロット認証における参加企業及び認証機関

■ 参加企業：リサイクラー 8社

成形用再生材料製造 石塚化学産業(株) / いその(株) / 永興物産(株) / (株)近江物産 / (株)大誠樹脂
 再生原料製造 (株)タイボー / (株)富山環境整備 / 三重中央開発(株)

■ 認証機関：日本化学キューエイ株式会社 (JCQA)

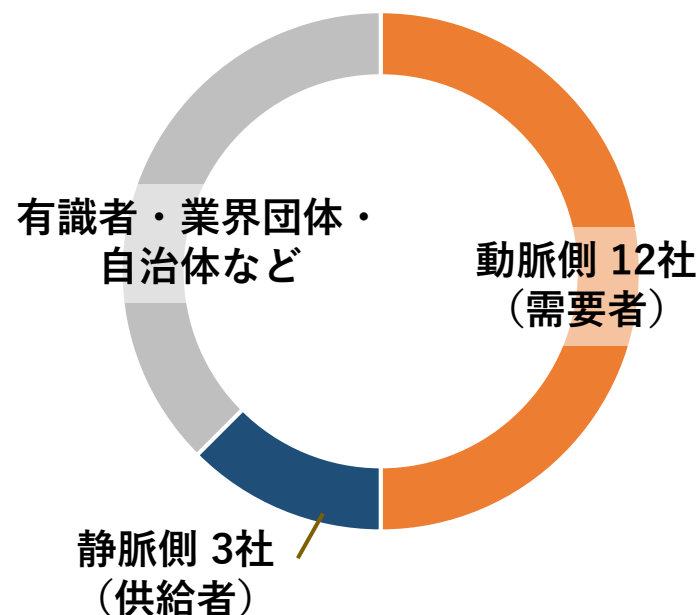
SPC認証に関する事業者の声

- 2023年10月～、40社・団体以上とSPC認証に関する意見交換を実施（継続中）
- 需要者側、供給者側の双方から賛同意見を多数いただいた
- **日本発の認証への期待が高い**

SPC認証への期待

- コストも含めて、**中小企業も取得できる認証**
- **潜在的な供給者**が明らかになることへの期待
- オールジャパンとしての動静脈や業界間における横ぐしの取り組み、**コンセンサス形成の場**
- 資源排出事業者からリサイクラーへのつながり（**トレサビのための土台**、出口を見据えた回収、リサイクル先への関心の高まり）
- 様々な規模の供給事業者がいるなかで、**要求事項（化学物質規制対応等）のベンチマーク**として期待
- 認証の**取得支援**（分析、技術、教育等）も合わせた検討
- 将来的に**国際連携**（相互認証等）も視野に入れた検討

意見交換先の内訳





2. SPC認証プログラムの概要

SPC認証とは (1/2)

➤ 名称

SPC (Sustainable Plastics Certification) 認証

➤ 目的 ※SPC認証プログラム基本文書より以下抜粋

SPC認証は、**適正なマテリアルリサイクルシステムの要件を満たす事業所 (工場) (以下、事業所という) に対して第三者による認証を提供し、再生プラスチックの価値と信頼性を高め、ブランドオーナーや成形加工メーカー等の需要者からの適正な価値評価と使用量の拡大につなげ、あわせて製品機能使用者であるエンドユーザーに再生プラスチックに関する理解を促進することを目的とする。**

➤ 認証カテゴリとサブカテゴリ及び認証マーク

■3つのカテゴリ

- ①再生資源調達
- ②再生原料製造
- ③成形用再生材料製造

■2つのサブカテゴリ

Standard / Gold



SPC認証とは (2/2)

- マテリアルリサイクルに関わるサプライチェーン上の事業者を **品質・安定供給・安全・環境の観点から総合的に評価する事業所（工場）認証**
- 安心かつ安定して使える 再生プラスチック市場の醸成に貢献することを **目指す**



特長

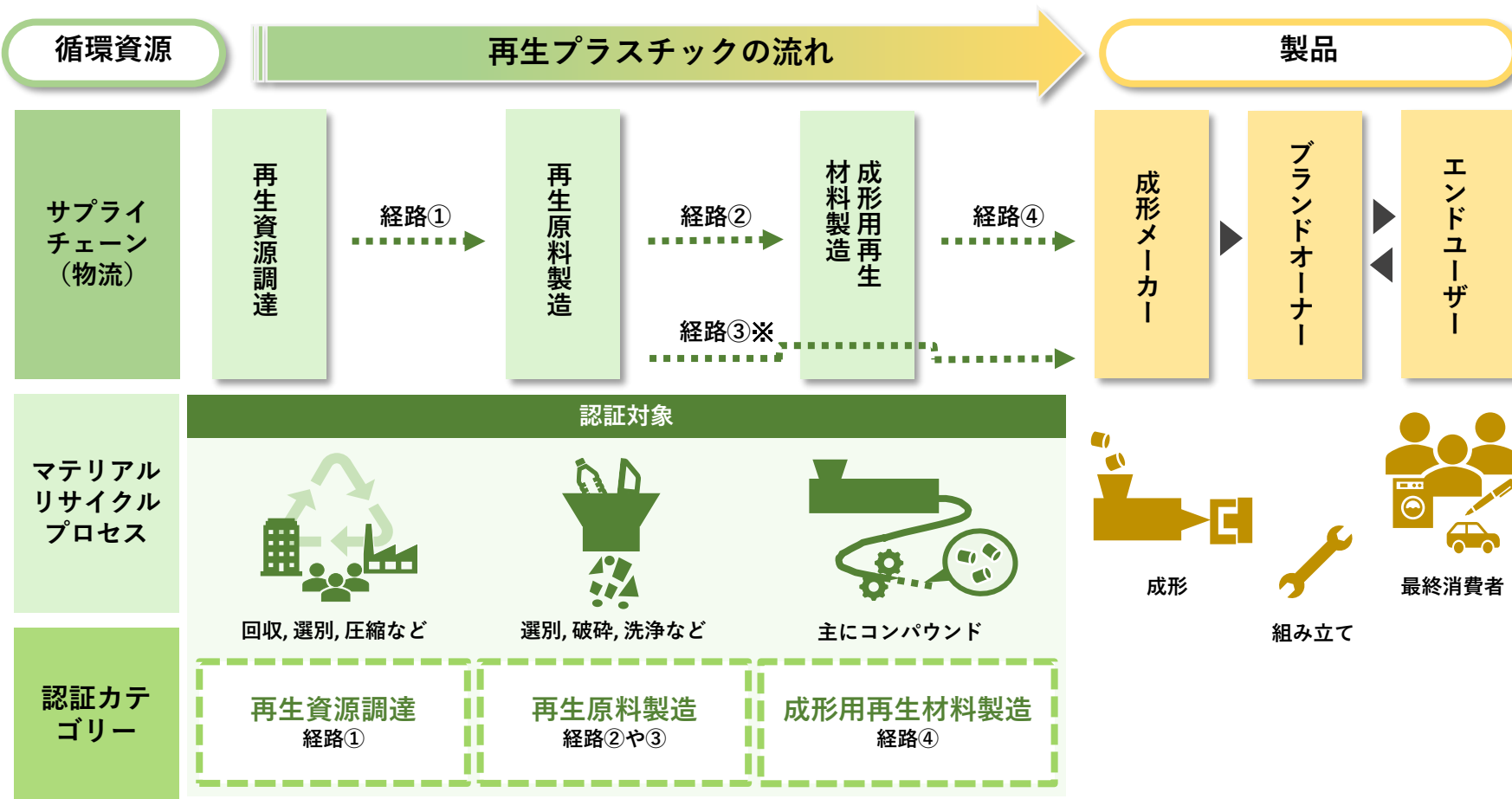
- 品質・供給・安全・環境について **まとめて評価可能**
- 日本発、**低コスト**で実現

目指す姿

- 認証を取得している企業からは **安心して購入**できる
- 認証を取得している企業に **安心してリサイクル**を委託できる
- サプライヤー監査負担の軽減
- 再生プラスチック事業者の **認知度向上**
- **資源循環産業化への貢献**

認証対象および認証カテゴリー

- 使用済プラスチック（PCR、PIR）を原料として再生プラスチックを製造するマテリアルリサイクルプロセスを認証対象
- 本認証ではプロセスを再生資源調達、再生原料製造、成形用再生材料製造の3つにカテゴリー分け



※経路③：成形メーカー向けに破碎品や粉碎品を製造する場合など

SPC認証基準 Ver.1

項目 (01~06)

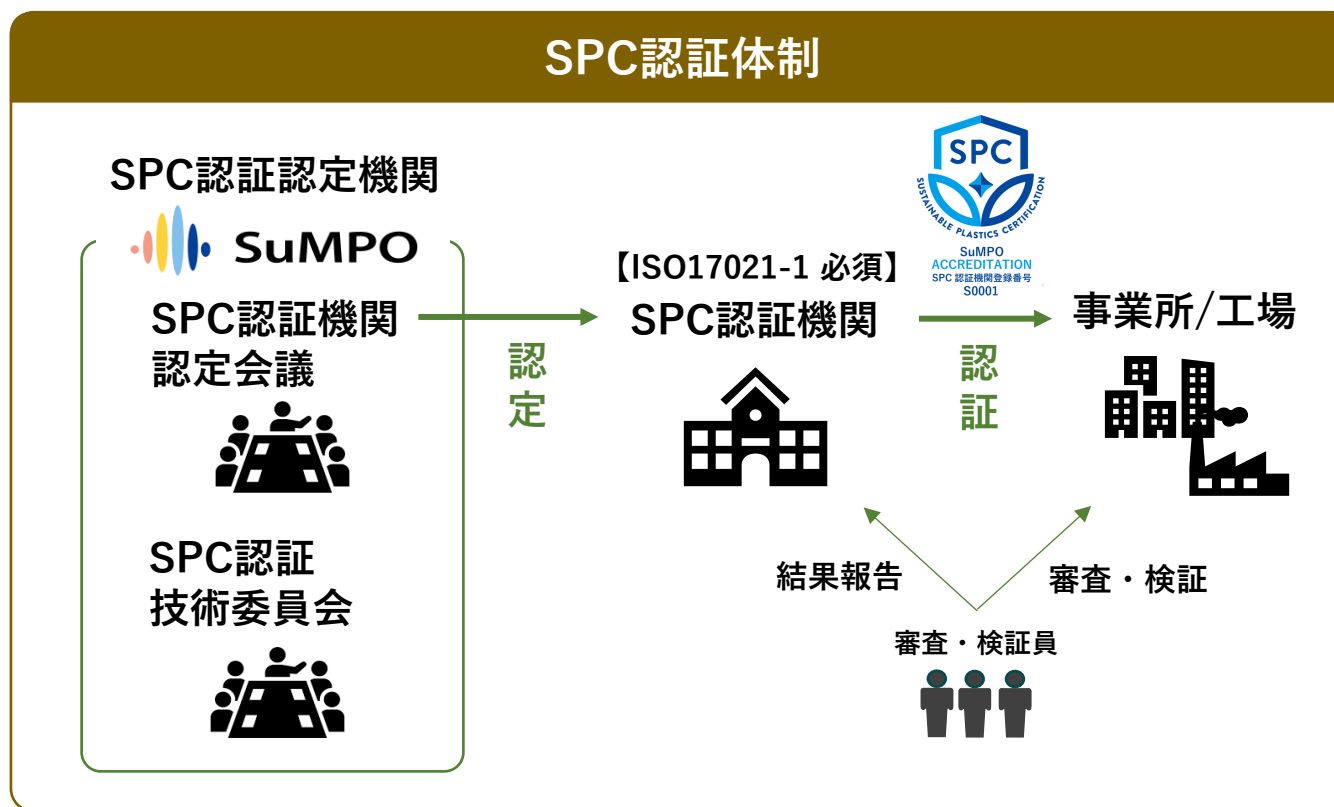
01 関連法規への適合	01 関連法規への適合
02 環境保全	01 環境配慮に関する活動
	02 近隣住民とのコミュニケーション
03 要求事項の決定	01 品質管理体制の構築(1)
	02 品質管理体制の構築(2)
	03 作業の標準化
	04 化学物質把握(1)
	05 化学物質把握(2)
	06 トレーサビリティ体制の構築
	07 マテリアルバランスの管理
	08 再生材含有率の計算と証明
	09 在庫管理体制の構築
	10 供給リスク対策
	11 再生資源の安定確保
	12 協力会社工程
	13 技術に関する取り組み
04 工程フローの明確化	01 QC工程表の作成と現場の一致
05 工程毎のリスク評価	01 工程におけるコンタミネーションの特定
06 重要監視工程の特定	01 重要監視プロセスの決定
	02 重要監視プロセスにおけるコンタミ防止策の実施

項目 (07~10)

07 工程管理水準の決定	01 品質における管理水準の決定(1)
	02 品質における管理水準の決定(2)
08 監視・測定の方法の決定、運用とその評価	01 工程モニタリング
	02 品質検査方法の決定
	03 管理・メンテナンス(1)
	04 管理・メンテナンス(2)
	05 管理・メンテナンス(3)
	06 原料の受入れ
	07 原料の識別
	08 原料の保管 (区分、表示)
	09 原料の払出
	10 原料の破碎
	11 原料の洗浄、脱水・乾燥
	12 造粒前ブレンド (均質化)
	13 造粒工程
	14 カutting
	15 アフターブレンド (均質化)
16 製品検査	
17 製品の包装	
18 製品の保管、出荷、納入	
09 不適合への対応	01 不適合発生時の対応方法の決定
	02 クレームへの対応方法の決定
10 記録の保管	01 記録・保管方法の決定

SPC認証体制

- SPC 認証の適正な運営管理については、SuMPOが責任を持つものとし、有識者等を中心とした「SPC 認証機関認定会議」及び「SPC 認証技術委員会」の審議を経ることにより、文書や認証機関の認定等に対する信頼性・透明性・公平性を担保する。



さんぽ わざ
心豊かな未来をSuMPOの業で創ります



Sustainable Management Promotion Organization

一般社団法人サステナブル経営推進機構

本部

〒101-0047 東京都千代田区内神田一丁目14番8号

KANDA SQUARE GATE 4階

神田小川町オフィス

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町二丁目4番16号

いちご神田小川町ビル 3階

名古屋オフィス

〒460-0022 愛知県名古屋市中区金山一丁目12番14号

金山総合ビル7F（株式会社フルハシ環境総合研究所内）

岡山オフィス

〒700-0082 岡山県岡山市北区津島中一丁目1番1号

岡山大インキュベータ210号室

ホームページ <https://sumpo.or.jp>